

# 京極読書新聞 <第50号>

発行日 平成25年 10月 1日(火)  
京極町生涯学習センター湧学館

## 京中職場体験 2013

### 展示、レプリカ、製本… みんな やってみました！

毎年恒例の京極中学校・職業体験学習、この季節の来るのが楽しみです。今年度、湧学館に来てくれたのは、2年生の村上優花さん。にこにこ笑顔で仕事をどんどんこなします。理解が早く、一度の説明でたちどころにその作業をマスター。何度か失敗して、その失敗の中から何かを学びとる…といった例年の職業体験パターンが通用しません。1時間はかかる学習が20分で終わってしまいます。予定していた二日間の作業や学習がほとんど第一日目で終了してしまい、二日目からは、出前図書館（ブックトークや読みきかせ）のリハーサルにまで参加してもらうなど、湧学館の職業体験史上、異例の展開となりました。<新谷>



京極読書新聞は  
毎月1日発行です。

## 職場体験を終えて

京極中学校 2年 村上 優花

私は湧学館で職場体験をしました。なぜ湧学館を選んだかという、貸出や返却のカウンター業務をやってみたかったからです。

一日目は、書架返却や書架整理、カウンター業務、図書の修理、ブッカーかけをしました。書架返却は分類番号を探すのに大変でした。でも、やっていくにつれて慣れてきて楽しかったです。カウンター業務は、簡単ではありませんでした。DVD視聴受付処理が特に大変でした。でも楽しくできました。一番難しかったのは、図書の修理とブッカーかけです。図書の修理は本が割れている所にのりをいれなきゃいけないので、入れる場所が細かくて大変でした。そしてブッカーかけはカバーに空気を入れないようにしてやるのが大変でした。一日目は大変なことばかりでした。

二日目は、図書の修理、カウンター業務、書架返却や書架整理をし、次の日が南京小の出前図書館があるそうなので、そこで読み聞かせとブックトークをするらしいのでそのリハーサルを見ました。

二日間、あっというまでした。初めてのことで緊張していましたが、職員の人たちが優しく教えてくれたので、とても安心して二日間、仕事をする事ができたので良かったです。

## 第2日めの村上優花さん

図書館の仕事は、大別すると、2つの層に分けられます。ひとつめの層は、図書整理やカウンター業務の層。この領域では、日本中どこに行っても、誰もが簡単に図書館を使えるように、すべての図書館が共通の基準や約束事を守って仕事をしています。湧学館だけ独自のルールでやっているとか、そんなことは絶対にありません。通常の職場体験学習では、これら、基本的図書館業務を中心に話をします。

第一日目ですべてのこの領域の説明は終わってしまいましたので、二日目からは、もうひとつの層、湧学館の個性を形作るプロの図書館業務の世界にもかかわってもらいました。いろいろな湧学館オリジナルの作業、面白かったかな？

### 1. 「バスの旅」コーナーづくり



湧学館入口の一角に、製本教室の作品などを集めたコーナーがあります。この日は、そ

こに、10月12日にひらかれる「羊蹄山麓を一巡り・バスの旅」のポスター・チラシを出しました。関連する読書会テキストを集めて「バスの旅」コーナーを作ります。いっぱい人が集まると嬉しいです。

### 2. 読書会テキストの製本



村上さんが、製本用のビニール糊を竹串の先に付けて、図書本体と表紙を貼り合わせる作業をしています。糊が乾くのに一昼夜かかります。そのかわり、乾いたらもう二度と剥がれない強力な糊。この本は来月の湧学館読書会で使う予定の大事なテキストなので、ふだんは誰にも頼らず司書一人で製本することが多いのですが、一日目の「図書の修理」の手際よさを見ていて大丈夫と思ったのでしてもらいました。

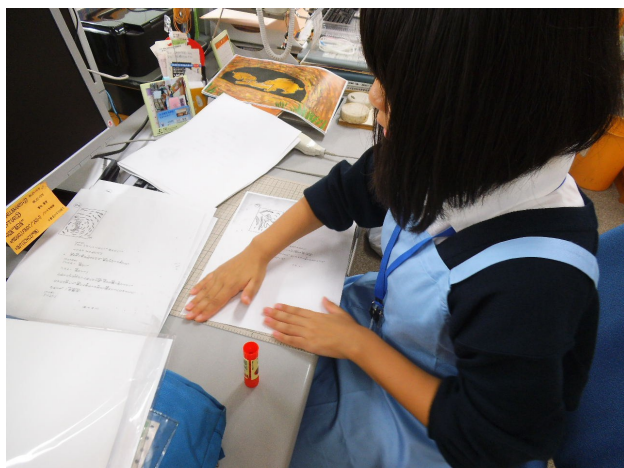


### 3. 「モモタロウサン」展示づくり



「京極読書新聞」でもお伝えしている通り、京極町内の民家から大量の戦前・戦中の紙芝居が見つかりました。現在、湧学館で整理中です。整理が完了したものから、町の人にもその紙芝居の全容がわかるようにいろいろなイベントを企画しています。これはその中のひとつ、紙芝居の一枚一枚を拡大カラーコピーにとり、裏の台詞を付けて湧学館ギャラリーに展示を作りました。今回の展示は「京極読書新聞」第49号でご紹介した『モモタロウサン』。札幌や東京の博物館でも（おそらく）見ることはできないだろう貴重な資料が、今、湧学館で見られます。

### 4. 「戦前の紙芝居」レプリカづくり



展示用の拡大コピーだけではなく、きちんと原寸に合わせたコピーもとって、それでレプリカ（複製品）を作ります。こちらのレプリカを使って、おはなし会や出前図書館で紙芝居の読みきかせします。これなら素手でさわっても大丈夫。本物は、すべて手袋着用を義務づけられた博物館並みの作業になります。今、村上さんが作っているのは、「京極読書新聞」第48号でご紹介した『貝の火』のレプリカ。紙芝居は、観客に見えている画面と台詞を読み上げている画面が一枚ずつずれているので、レプリカを作る作業はけっこう知的な作業なんですよ。

### 5. 出前図書館リハーサル



明日は南京極小学校の出前図書館です。『モモタロウサン』の読みきかせの後ブックトークを行うという、少し変則的な出前図書館を予定していましたので、リハーサルに村上さんも参加してもらいました。男の声で読む『モモタロウサン』、女の声で読む『モモタロウサン』の二通りをテスト。紙芝居の感想など、後のブックトークにつなげるためのいろいろなヒントをもらいました。



# 羊蹄山麓を一巡り・バスの旅

平成25年10月12日(土) 9:00~16:00



ティールーム・ケンブリッジ



木田金次郎美術館

今年の「バスの旅」は、五年間続いた金曜夜の読書会総集編。読んできた名作の舞台を次々に巡ります。慣れ親しんだ羊蹄山麓の町々ですが、こんなにも新発見があったのか！と驚く旅になることでしょう。まずは、私たちの原点、「北の沢」へ。

**湧学館 午前9時出発**～①京極／北の沢(錦)(峯崎ひさみ「穴はずれ」)～②喜茂別／さみしい橋(行方洋子「さみしい橋」)～③留寿都／登延頃(大沼桂子「多与」)～④ニセコ／有島謝恩会館(有島武郎「生れ出る悩み」)～⑤ニセコ／王子発電所(畔柳二美「青いりんごのふるさと」)屋食／昆布温泉 ニセコグランドホテル  
⑥岩内／木田金次郎美術館 「第一回個展の頃」展～⑦岩内／ケンブリッジ(お茶休憩あり)(市川森一「ここではない何処か」)～⑧倶知安／六郷公園～孝運寺(大森光章「このはずくの旅路」)～⑨倶知安／旧八幡神社(沼田流人「血の呻き」)～湧学館 午後4時到着予定／  
⑩小樽・余市グッス抽選会

**定員：20名 参加費：3000円 申込み受付：湧学館(電話 42-2700)へ  
10月1日(火)開始～8日(火)締切／定員になり次第、終了**

## 発行

京極町生涯学習センター湧学館  
〒044-0101 京町字京極158番地1  
TEL 0136-42-2700(代表)  
FAX 0136-42-2032  
E-Mail yugakukan@town-kyogoku.jp



ホームページもご覧ください  
<http://lib-kyogoku.cubet.com/>

